博物館アラカルト⑲

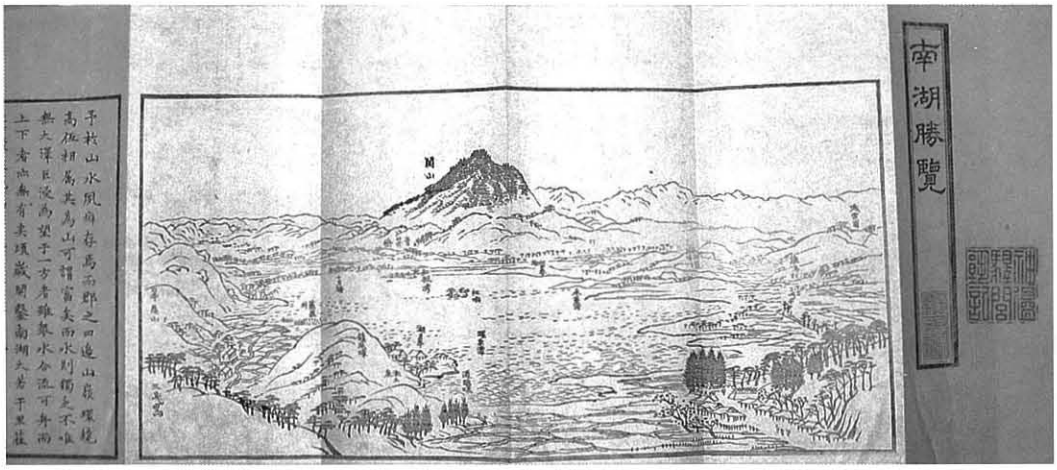
●南湖十七景と菅茶山

神辺の儒学者・菅茶山は、現在の福島県白河市に訪れたことはないのですが、その名を現地に残しています。白河には松平定信が造営した南湖と呼ばれる公園があり、これは日本最初の公園と呼ばれるものです。

もともと、沼沢地であった場所を開墾して享和元年（1801）に完成した園地で、その周辺に桜・松・楓などを植えて、その周囲に和名と漢名をつけた十七景を定めました。茶山はその一つの「逗月浦」（和名は月見浦）の漢詩を詠んでいます。茶山の日記には、文化五年に白河藩儒の広瀬蒙斎から定信の命を伝えてきたことが記されています。

南湖図（星野文良画）

この十七景の和名の和歌には、定信を初め近衛基前（公家）・阿部正精（福山藩主）・佐竹義和（秋田藩主）などが名を連ね、漢詩には茶山を初め尾藤二洲・古賀精里（幕府儒官）・立原翠軒（水戸藩儒）・頼杏坪（広島藩儒）など一流の学者が名を連ねています。



南湖勝覧（部分）

これらの作品は「南湖名勝図並詩歌」にまとめられていて、これをもとにして「南湖碑」が文政三年（1820）に建てられました。表に和歌短冊を、裏に十七景の漢詩と林述斎の「南湖詩二十韻」と漢詩と広瀬蒙斎の建碑の辞が刻まれました。黄葉夕陽文庫にはこの碑の拓本が残されています。

この南湖に関わる資料がいくつか黄葉夕陽文庫に残されています。ひとつは「南湖勝覧」と呼ばれる刷物で、これは白河藩家老の吉村宣猷が南湖畔に賜った湖月亭の詩文を乞うために贈ったものです。また、諸友の詩画をまとめた「絹本書画帖」の中に星野文良（白河藩御抱絵師）の南湖図が収められています。中央に関山を望み、湖面には舟が浮かんでいます。この関山は、白河のランドマークで、「南湖勝覧」にも描かれています。

福山と白河は現在でも、新幹線を乗り継いで六時間ほどかかる距離です。あらためて、江戸時代の人々の文雅のあり方・定信の先見性・茶山の詩人としての名声に驚くばかりです。

（主任学芸員　岡野将士）